

北海道千歳市（国内 22 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 8 年 3 月 25 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 46 万羽）

発生家きん舎の構造：セミウインドウレス

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立 4 段 8 列、通路 5 本）

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は令和 4 年シーズン国内 82 例目（令和 5 年 3 月 28 日発生）の発生農場であった。
- ② 酪農場や牧草地に囲まれた平地に位置しており、農場上空をハクチョウ類の群れが飛翔していた。農場の東側を流れる河川では野鳥は確認されなかった。
- ③ 農場の北側には防風林を挟んで牛農家が所在しており、防風林にカラス類が 100 羽程度集まることがあるとのこと。また、南側約 0.9km の馬の放牧地にハシボソガラスの飛来を確認したほか、南西側約 2.6km のごみ処理センターでは 18 羽のハシボソガラスを確認した。
- ④ 当該農場はセミウインドウレス鶏舎 13 棟からなり、北側に 7 棟、南側に 6 棟が配置されていた。発生鶏舎を含む 11 棟は 1 階建てで、直立 4 段ケージが背中合わせで 8 列、その他 2 棟は 2 階建てで、直立 8 段ケージが 8 列設置されていた。また、衛生管理区域内には堆肥処理施設（コンポスト舎及び製品堆肥舎等）が、衛生管理区域外には GP センターがあった。
- ⑤ 発生時は 12 棟の鶏舎で採卵鶏が飼養されており、発生鶏舎は北側の鶏舎群の東端に位置していた。
- ⑥ 鶏舎内ではモニターによる自然換気を行っていた。平側上下に入気口があったが、冬季は閉鎖しているとのこと。モニターには幅約 2 cm の亀甲金網が張られていた。
- ⑦ 北側、南側の鶏舎群はそれぞれ入口側に設置された内部通路で連結されていた。通路内部には集卵バーコンベアが通っており、農場敷地の東端に位置する GP センターに接続されていた。集卵バーコンベアは鶏舎外において内部通路を通るか、もしくは全面がパネルで囲われているため、外部に露出しない構造であった。なお、内部通路は狭く、鶏舎間移動時には鶏舎出入口による更衣等を徹底する運用としていたため、鶏舎と内部通路はドアで仕切られており、内部通路を従業員が利用することはほとんどないとのこと。

3 通報までの経緯

- ① 通常の 1 鶏舎あたりの死亡羽数は 2～3 羽程度であるところ、3 月 23 日、発生鶏舎（通報時 243 日齢、約 3.6 万羽飼養）において、15 羽が散在して死亡していた。尻つつきが数羽の死亡鶏で確認されたほか、ケージ奥の見えにくい場所で発見された古い死体であったことから前日の死亡鶏の見落としと考え経過観察としたとのこと。

- ② 3月24日、発生鶏舎の西側から3、4列目の南側出入口から約15mで、3、4段目を中心にまとまって死亡が確認され、鶏舎全体の死亡羽数が39羽であったため、家畜保健衛生所に通報。1ケージあたり3羽死亡（1ケージあたりの飼養羽数は7羽）しているケージもあったとのこと。その後、時間の経過とともに発生ケージ付近で死亡鶏が増加し、この日の死亡羽数は50羽以上に達したとのこと。
- ③ 調査時、発生ケージ周辺において、1、2段目の殺処分は完了していたが、3、4段目では死亡鶏が複数確認された。発生鶏舎内のその他の列のケージでは、鶏冠にチアノーゼを呈した死亡鶏が散在して確認されたが、全体的には活力良好であった。調査時に立ち入った非発生鶏舎では、異状は確認されなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 従業員は、農場長と事務担当の他に25名が在籍しているとのこと。そのうち6名が鶏舎内での飼養管理、3名が飼養管理の代行、7名が鶏糞・堆肥作業、2名がネズミ対策、3名が鶏舎の洗浄及び修繕を担当しており、その他の従業員が餌やバーコンベアの管理に従事していたとのこと。従業員全員が鶏舎内に立ち入ることがあるが、毎日立ち入るのは飼養管理の6名とネズミ対策の2名とのこと。
- ② 6名の飼養管理担当者は1名当たり2～3鶏舎を担当しており、代行者の担当鶏舎も概ね決まっていたとのこと。なお、それぞれの鶏舎において週に2～3回は代行者が飼養管理を行うことがあり、3月23日、24日において、発生鶏舎の飼養管理はそれぞれ別の代行者が担当していたとのこと。
- ③ 管理獣医師の過去21日間の来場は、3月23日の定期訪問のみであるが、鶏舎へは立ち入っていないとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域の出入口は東側と南東側の2箇所が存在し、両方に車両消毒ゲートが設置されていた。東側の出入口は飼料会社や廃鶏業者、灯油業者が利用し、南東側の出入口は製品堆肥の搬出車両（搬出業者及び耕種農場）及びGPセンターに立ち入る車両が利用するとのこと。その他、農場に出入り可能な出入口は複数箇所に存在するが、門戸及び立入り禁止の看板を設置しており、車両が出入りすることはほとんどないとのこと。
- ② 従業員は、衛生管理区域外の駐車場に車を停めて、駐車場の小屋内で靴底消毒を行った後、事務所にて衛生管理区域専用の作業着、防護服、長靴、手袋を着用し、衛生管理区域内へ入場するとのこと。事務所は一方通行であり、作業前後で人や長靴が交差しない構造となっていた。
- ③ 東側の出入口を利用する外部業者は、東側の出入口に設置された外部業者着替室で、農場が用意した衣服、長靴、手袋を着用して衛生管理区域内へ入場するとのこと。
- ④ 南東側の出入口を利用する製品堆肥の搬出業者及び耕種農場から堆肥を受け取りに来る者は、事務所にて靴底消毒及び手指消毒のみ実施後、南東側の出入口で車両消毒をして衛生管理区域内の保管場所に立ち入り、積み込み作業時には降車していたとのこと。

- ⑤ 鶏舎に入る際には、鶏舎出入口に設置されているすのこの手前で踏込み消毒、全身の噴霧消毒及び手指消毒を行い、すのこ上で防護服を脱ぎ、鶏舎専用長靴に履き替え、再度踏込み消毒を行っていたとのこと。その後、各鶏舎専用の手袋を着用して作業するとのこと。また、出入口一帯には消石灰が厚さ約1cmの厚さで散布されていた。
- ⑥ 鶏舎奥には裏口があり、鶏糞作業時に除糞ベルトのスイッチ操作や野生動物侵入防止の板を開閉するために出入りすることがあり、⑤と同様の流れで鶏舎内に入ること。
- ⑦ 飼料は閉鎖系のラインを通じて自動給餌を行っており、飼養鶏には消毒済みの地下水を給与しているとのこと。飼料タンクに餌こぼれは確認されず、前回発生以降、飼料タンクにカバーを取り付けたため、野鳥が留まることはなくなったとのこと。
- ⑧ 鶏舎単位で同一日齢の鶏が飼養されており、120日齢前後で導入し、約500日齢で誘導換羽、約800日齢で廃鶏を出荷するとのこと。一部の鶏舎では780日齢で2回目の誘導換羽を行っており、900日齢まで飼養することもあるとのこと。鶏舎ごとのオールイン・オールアウトを行っており、直近21日間の出荷は3月2～4日に8号鶏舎で行ったとのこと。直近の導入は発生鶏舎で約4か月前に行われたとのこと。

6 糞及び死亡鶏の取扱い

- ① 糞は、各鶏舎3日に1回の頻度でベルトコンベアを稼働させて鶏舎から搬出し、除糞ピットから車両に積載してコンポスト舎の生糞置き場に運搬するとのこと。その後、全てコンポストで処理され、一部は水分量の調整、ペレット化及び袋詰めをして販売し、一部はペレット化を行わず近隣の耕種農場に販売していたとのこと。ペレット化された堆肥は搬出業者が搬出しており、ペレット化されていない堆肥は自社で搬出する場合や近隣の耕種農場が来場して購入する場合があったとのこと。過去21日間の状況として、ペレットの搬出はないが、自社による搬出を3月14～24日朝まで実施しており、耕種農場の来場は3月24日朝にあったとのこと。
- ② 死亡鶏は巡回時に回収し各列の端に置いた後、羽数を記録してバケツに集め、鶏舎内の入口脇に置いておくとのこと。バケツ内の死亡鶏を鶏糞・堆肥担当者が毎日回収し、農場内で焼却処理するとのこと。廃棄卵は別のバケツに集め、鶏糞・堆肥担当者が回収後、コンポストで処理するとのこと。
- ③ 堆肥施設はトタンで覆われた構造であるが、作業中は出入口の防鳥ネットを開放するため、その際にスズメ等の野鳥が侵入するとのこと。調査時に完熟堆肥を保管する施設でスズメを10羽程度確認した。また、堆肥舎周辺にはカラス類が2羽飛来していた。

7 野鳥・野生動物対策

- ① 農場内に野生動物の侵入状況を監視するセンサーカメラが設置されており、12月に確認した際にはシカやアライグマ、キツネ、ネコが確認されたとのこと。
- ② 鶏舎内のネズミ対策専任の従業員が、鶏舎内で殺鼠剤や粘着シート、トラップの設置をしており、たまにクマネズミが捕獲されるとのこと。

- ③ 北側の牛農家からカラス類が当該農場に飛来することがあるため、カラス忌避音装置や忌避レーザーを設置しているほか、農場長や従業員自らロケット花火を使って追い払っているとのこと。

8 その他

- ① 前回の発生以降、以下の改善を実施したとのこと。
- ・カラス対策として状況に応じて従業員がロケット花火を使用
 - ・カラス忌避レーザーを6台設置（調査時は強風により2台故障中であった。）
 - ・餌タンクのカバーを設置
 - ・農場内の道路を舗装（堆肥施設周辺は簡易舗装であるが、鶏舎周辺はアスファルト舗装されていた。）
 - ・前回発生鶏舎含め、古い鶏舎を解体
 - ・コンポストを3基追加整備、焼却炉を整備
 - ・廃棄卵、死亡鶏を堆肥に混ぜて処理することをやめ、それぞれコンポスト処理、焼却処理を農場内で実施
- ② 野鳥対策により、カラス類の飛来数は減少したとのこと。
- ③ 通報の4～5日前に北側から強風が吹いていたとのこと。

（以上）